

認知症みたく見える病気

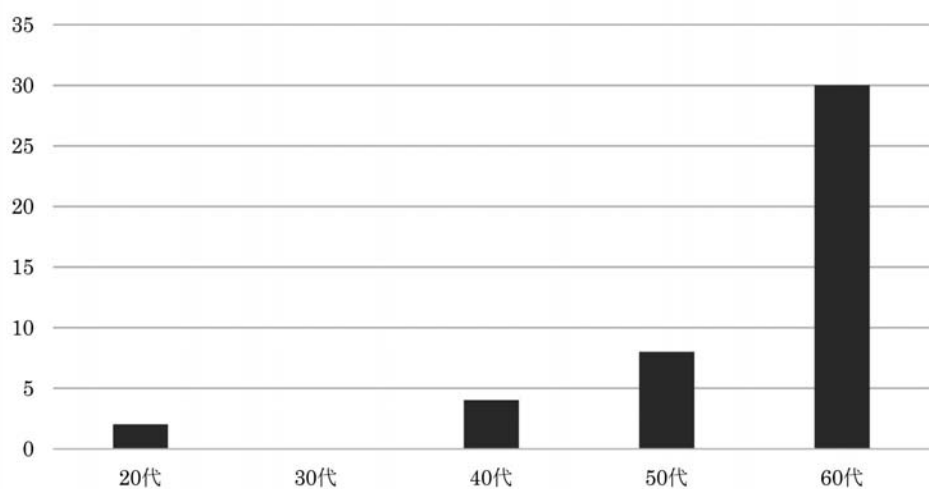
- うつ病
- 高熱などのせん妄
- 内科的疾患(甲状腺異常、糖尿病、自己免疫疾患など)
- 正常圧水頭症 脳腫瘍 硬膜下血腫 側頭葉てんかん
- 服用している薬の問題(降圧剤、H2遮断薬、抗不安薬 睡眠薬などはうつ、記憶障害を起こす可能性) (せん妄を引き起こすのも多数)
- アルコール依存症 ビタミン不足



若年性認知症に対する各種支援・介護

- 就業支援・自動車免許
- 精神科通院医療(自立支援法)
- 配置転換
- 退職後生活支援・医療費控除
- 福祉就労支援
- 社会参加
- 障がい者年金・精神保健福祉手帳・介護保険認定
- デイサービス・ショートステイ・ホームヘルプ
- 住宅ローン免除
- 成年後見制度(補助⇒補佐⇒後見)

1市3町での年齢別若年性認知症



星和書店より2019年10月出版。税別1200円。サイズは30.4×21.8×1.2 cm 28ページ

30年にわたり認知症を診てきた専門医が、認知症の「本人と、介護するご家族を応援するために出版した絵本。子供と一緒に読むのもおすすめ。認知症の患者さんやご家族を支える医療・福祉関係の方々にもお読みいただきたい一冊

認知症とともに、笑顔と自信を携えて。

小田原医師会より住民の方々へ

新型コロナウイルス感染症(名称:COVID-19)の感染拡大が危惧される中、日々、様々な情報を耳にしていると思いますが、医療機関を受診する際の注意点をお知らせいたします。

- ①現在、何らかの理由で通院している方は、自己判断で通院(お薬)を中断しないでください。現在治療中の病態が保てなくなること、病態そのものが悪化し、さらに体調が不安定になることで感染のリスクが高くなり危険が増します。処方薬のうけとり方はかかりつけ医と相談できますので問い合わせてください。
- ②感染症と思われる「体調不良」がみられるとき、特に肺炎など呼吸器症状があるときには、慌てて受診せず、右記の手順でかかりつけ医または近医に問い合わせをしてください。

小田原医師会

「帰国者・接触者相談センター」

- 小田原保健福祉事務所(小田原、箱根、湯河原、真鶴に居住の方及び旅行者) ☎0465-32-8000
- 小田原保健福祉事務所足柄上センター(南足柄、開成、大井松田、山北、中井に居住の方) ☎0465-83-5111

自宅療養の際の注意点

- ①症状が軽いときは自宅療養してください。普通のかぜも新型コロナウイルスは区別できません。すぐに受診しても、新型コロナウイルスと診断することも困難です。診断できても、肺炎になったり重くなるのを防ぐ治療薬などありません。また、新型コロナウイルスの殆どはかぜのような軽い症状のまま自然に治ります。一方で、症状がある時に外出したり受診すると、外出先や待合室で感染を拡大するおそれがあります。そのため、かぜのような症状が出て、最初の数日間は受診せず、仕事や学校を休んで、自宅療養してください。自宅療養の期間は、4日間。1日2回(朝、夕)体温を測り、手帳やノートに体温を記録してください。不安があるときは、かかりつけ医療機関に電話して担当医のアドバイスを仰ぐといでしょう。
- ②症状が2日以上続いたら、主治医へ再度、電話相談してください。新型コロナウイルスではないのか、他のかぜであれば、通常は3~4日間で自然に治ります。もし4日以上かぜの症状(発熱、咳、のどの痛みなど)が続いた場合、又は4日未満でも呼吸が苦しくなるなど悪化する傾向があれば、新型コロナウイルスの可能性も出てきます。高齢の方、持病のある方、妊婦は、新型コロナウイルスが悪化する可能性があります。かぜの症状が、2日以上続いた時点で、注意する必要があります。2日以上かぜの症状が続いた場合は、主治医が近医に電話で相談してください。直接、待合室に入らず医療機関に電話してから指示を仰いでください。受診は、たとえ咳やくしゃみが続いても必ずマスクをつけてください。

感冒様症状での自宅療養中の家族内感染の予防策

- ①感冒様症状の患者はできる限り家族との接触を避け、療養する部屋も分ける。
 - ②看病が必要な場合は、看病する人を限定する(1人が望ましい)。ただし、高齢者、基礎疾患を有する患者又は妊娠中の女性には看病させない。
 - ③患者と家族はタオルを共有せず、別のものを使う。
 - ④患者の入浴は最後にする。
 - ⑤療養する部屋から患者が出るときは、マスクをつけ、部屋を出る直前にアルコール手指消毒をする。
 - ⑥患者が触った箇所(ドアノブや手すりなど)をアルコールを湿した紙で拭き取り消毒し、拭き取った紙は再利用せずすぐにゴミ箱に捨てる。
 - ⑦定期的に部屋の窓を開けて換気する。(目安:1~2時間1度、6~10分間程度)
 - ⑧患者が使った衣類やシーツを洗濯する際は、手袋とマスクをつけて洗濯物を扱い、洗濯後は十分に乾燥させる。
 - ⑨患者が出すゴミはビニール袋等に入れしっかりと口を縛って密閉してから部屋の外に出す。ゴミを扱った直後はしっかりと手洗いを。
- 症状が完全に消失すれば、自宅療養の期間は終了ですが、一度、主治医に連絡して確認をとってください。

若年性認知症を知ろう

小田原医師会 小林博子



若年性認知症ってご存知ですか?

「認知症」というと高齢な方の病気のイメージだと思いがちですが、40歳代、50歳代で発病する方もいらっしゃると思います。日本では、65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」と呼んでいます。65歳以上の認知症の方は462万人、若年性認知症の方は462万人の1割に思われます。

(2015年)の一方、若年性認知症は推定3万8000人と患者さんの数としては圧倒的に少ないです。しかし「まさか!自分か?」「認知症?」「この年代だから?」という悩みや社会的な問題も多々あります。そこでいろいろな知識という「力」を身につけてくだされば、いかに、と認知症の専門医は大切に思っています。

医療機関につながる最大のメリットは、実は、認知症かと心配したら認知症じゃなかったということもあるからなんです(図1参照)。これらは早

期発見・早期治療で症状の改善が望まれる病気です。それでも長い間病気が未治療のまま放置されると、治療が難しくなることもあり、やはり病気が早期に診断された方が得なことが多いと言えそうです。治療できるものはきちんと治療できないと、それこそ「もったいない」と思うのです。

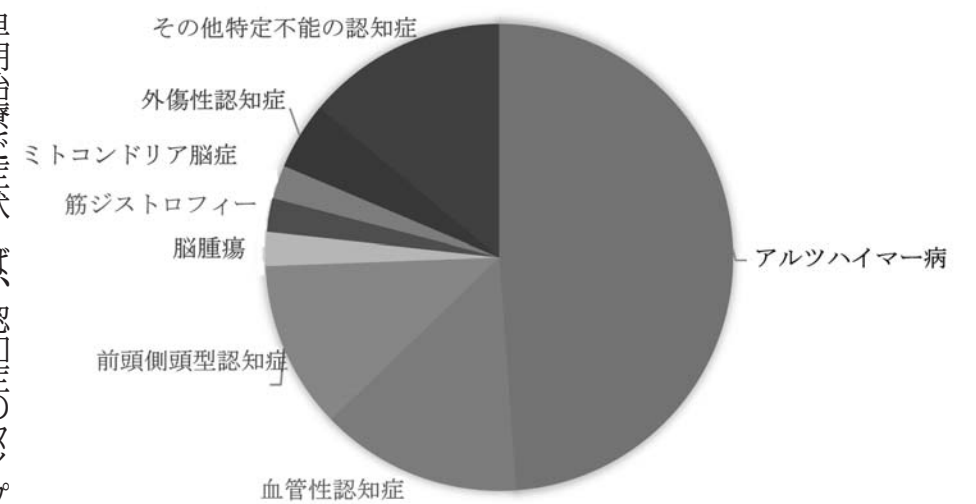
そして、いろいろな検査の結果、やはり、認知症と診断されたときでも、医療とつながってこれば、認知症のタイプに合った、これからの支援を一緒に考えていきます。

また、若年性認知症に対する各種支援・介護など、図2に書かれているように、病状の様々な病状・過程により、必要とされるサービスは違ってくるので、必要に応じてご家族の方へこんなことをお伝えしています。(大人向き絵本「とかけのアンソニー」星和書店 あとがきより引用)

今まさに認知症の介護をなさっている方にとっては、認知症介護は現実です。おそらく一生懸命患者さんである大切な方を支えていらつしやることだと思います。ですが、介護する方も自分を支えてくれる誰かが必要とされる時、特にご家族の方へこんなことをお伝えしています。(大人向き絵本「とかけのアンソニー」星和書店 あとがきより引用)

「認知症」とも、笑顔と自信を携えて。認知症となっても、日々のやりがいがと生きがいをもって心豊かに暮らすように、心から願っています。

1市3町における診断別若年性認知症



「認知症は高齢者に多くみられますが、40~60代で発病するケースもあります。心配な時、受診して医療とつながれば、適切な支援を受けることができます。偏見をなくし、社会全体が認知症を受け入れる理解が必要です。」

「認知症は症候群!!」ひとことで「認知症」という疾患名ではありません。何らかの原因で後天的に認知機能が低下し、進行的に生活障害が生じている状態を「認知症」と呼びます。認知症の原因疾患には、(確かに現状の医学では原因が特定できない認知症もありますが、多くはアルツハイマー病(脳出血や脳梗塞からくる)血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症、アルツハイマー病、外傷性認知症などがあります。それぞれの特徴があり、それぞれの治療・介護・支援の仕方が異なります。ですので、診断には分類診断は必要と私は考えています。

2018年9月に「小田原・箱根・真鶴・湯河原一市三町の若年性認知症を考える会」が発足しました。そして医療機関へのアンケートを通して結果を得ました。調査に基づいた支援の実施を目指しています。

「認知症」とも、笑顔と自信を携えて。認知症となっても、日々のやりがいがと生きがいをもって心豊かに暮らすように、心から願っています。

急病になった時は...

まず、かかりつけの医師に電話で相談してください。日頃から急病の時どうするか、かかりつけの医師と話し合っておきましょう。

かかりつけの医師が不在の場合は...

平日・土曜の昼間	地域医療連携室が医療機関をご案内 TEL.0465-47-0833
休日の昼間・夜間	小田原市休日夜間緊急診療所へお電話 TEL.0465-47-0823
休日の深夜	午後10時以降は小田原消防署へお電話 TEL.0465-49-0119

小田原医師会 地域連携室から...

感染予防として、手洗い、せきエチケットにご協力ください。